

<p>生徒の状況</p>	<p>国語への興味・関心、知的好奇心が旺盛で、どの学習活動にも意欲的に取り組める生徒が多い。自らの意見や考えをもって、それを表現することも抵抗なくでき、互いにより刺激になっている。一方で、自分の表現したいことについてふさわしい語彙を獲得し、効果的に表現する力については課題がある生徒が多い。また、授業での学びが、日常生活で触れる文章の読解や表現活動に活かせる生徒はまだ少ない。</p>
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の漢字や文章を読むことはできても、必要に応じて適切な漢字を用いて文章を書く習慣がなく、平易な漢字でもひらがなで書く生徒がいる。</li> <li>・自らの意見や考えを、グループワーク等で伝え合うことのできる生徒が多い。しかし、他者の意見・考えと自分の意見・考えを比較したり、他者の意見・考えを取り入れて自分の考えを深めたりすることについては、課題のある生徒が多い。</li> <li>・「書くこと」については、比較的抵抗なく文章にできる生徒が多い。しかし、筆者の主張や文章の主題を的確に捉え、ふさわしい語彙を選んで効果的に「書くこと」については、さらに力をつける必要がある。</li> <li>・文学的文章や説明的文章については、要旨や筆者の主張を捉えたり、表現の工夫について考えたりすることのできる生徒が多い。この学びを、日常生活で触れる文章の読解に活用できるようにしていく必要がある。</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>* 校内研修 研究テーマ  「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」  ～教科センター方式を活かした主体的な学びの実現～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 考えの深まりが見える化できるオープンエンドの「問い」を設定する。  → 他者との相違点や共通点を捉え、多様な考えを共有して自らの考えを深めるとともに、物事を多面的・多角的に見て考える視点を養う。</li> <li>② 単元の終わりに、三つのキーワードを使って振り返りをする機会を設ける。  → 学んだことと、学びを日常生活でどう活かすかを考えさせ、「授業だけの学び」にならない意識をもたせる。</li> <li>③ 新たな語彙を獲得する場面を意図的に設ける。  → 語彙を増やすことで、場面・心情にふさわしい効果的な表現ができ、思考を整理することについても有効であると実感させる。</li> <li>④ 国語のメディアスペースを、授業でのグループ学習や言語活動に関する教材提示等に活用する。→ 日常生活で気軽に言葉に触れる場や機会を設けることで、国語という言語や伝統文化を尊重する態度を養う。</li> </ol>

<p>生徒の状況</p>	<p>国語への興味・関心が高く、どの学習活動にも意欲的に取り組める生徒が多い。自らの意見や考えを表現できる生徒が増え、効果的な学び合いができる場面が多く見られるようになった。一方で、自分の表現したいことについて適切な語彙を用い、効果的に表現する力については課題がある生徒が多い。また、授業での学びが、社会生活で触れる文章の読解や表現活動に活かすことについてもまだ十分とはいえない。</p>
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の漢字や文章を読むことはできても、必要に応じて適切な漢字を用いて文章を書くことについては、まだ課題のある生徒が多い。</li> <li>・自らの意見や考えをグループワーク等で伝え合い、他者の意見・考えとの相違点や共通点を捉えることのできる生徒は多いが、他者の考えを取り入れて自分の考えを深めたりすることについては課題のある生徒が多い。</li> <li>・「書くこと」については、比較的抵抗なく文章にできる生徒が増えてきた。しかし、筆者の主張や文章の主題を的確に捉え、適切な語彙を選んで効果的に書くことについてはさらに研鑽を重ね、簡潔な文章を書ける自信をつけさせたい。</li> <li>・文学的文章や説明的文章については、要旨や筆者の主張を捉えたり、表現の工夫について考えたりすることのできる生徒が多い。この学びを、社会生活で触れるさまざまな文章の読解に活用できることを実感させたい。</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 校内研修 研究テーマ 「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」 ～教科センター方式を活かした主体的な学びの実現～</li> <li>① 考えの深まりが見える化できるオープンエンドの「問い」を設定する。 → 他者との相違点や共通点を捉え、多様な考えを共有して自らの考えを深めるとともに、物事を多面的・多角的に見て考える視点を養う。</li> <li>② 単元の終わりに、三つのキーワードを使って振り返りをする機会を設ける。 → 学んだことと、学びを社会生活でどう活かすかを考えさせ、国語科における学びが「授業だけの学び」に終始せず、生涯の学びにつながる意識を養う。</li> <li>③ 新たな語彙を獲得する場面を意図的に設ける。 → 語彙を増やすことで、場面・心情にふさわしい効果的な表現ができ、思考を整理することについても有効であると実感させる。</li> <li>④ 国語のメディアスペースを、授業でのグループ学習や言語活動に関する教材提示等に活用する。→ 日常生活で気軽に言葉に触れる場や機会を設けることで、国語という言語や伝統文化を尊重する態度を養う。また、その態度を広く啓蒙する姿勢にもつなげたい。</li> <li>* 8年国語科の授業に関する生徒の意見(生徒と教員が参加した授業研究から) (短歌の創作に関する授業についての生徒の意見・感想と今後) グループ学習では、互いの短歌についてアイデアを出し合うことができ、とても有効な学習ができた。これからもグループ学習での学び合いを取り入れたい。 → 生徒が学びを実感できる学習課題を精選して設定する。</li> </ul>

<p>生徒の状況</p>	<p>国語への興味・関心は高く、どの教育活動にも意欲的に取り組める生徒が多い。「間違えてもいい」という授業雰囲気も浸透し、自らの意見や考えを表現しようとする生徒が増え、効果的な学び合いができる場面が多くなった。しかし、学び合いでは言語化できることも、文章として書く作業になると途端に苦手意識をもつ生徒が多い。</p>
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を読むことはできるが、必要に応じて正確に書くことについてはまだ課題のある生徒が多い。</li> <li>・効果的な学び合いができる場面は増えたが、互いの意見や考えをさらに深めるために、意見交流の場を意図的かつ計画的に設定する必要がある。</li> <li>・文章の要旨や筆者の主張を捉える学習活動を多く取り入れるとともに、自分の考えや思いを相手に的確に伝えるために、効果的な語彙や表現、順序を吟味して書く力を定着させる必要がある。</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>* 校内研修 研究テーマ  「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」  ～教科センター方式を活かした主体的な学びの実現～</p> <p>① 考えの深まりが見える化できるオープンエンドの「問い」を設定する。  → 他者との相違点や共通点を捉え、多様な考えを共有して自らの考えを深めるとともに、物事を多面的・多角的に見て考える視点を養う。</p> <p>② 単元の終わりに、三つのキーワードを使って振り返りをする機会を設ける。  → 学んだことと、学びを日常生活でどう活かすかを考えさせ、「授業だけの学び」にならない意識をもたせる。</p> <p>③ 新たな語彙を獲得する場を意図的に設ける。  → 語彙を増やすことで、場面・心情にふさわしい効果的な表現ができ、思考を整理することについても有効であると実感させる。</p> <p>④ 国語のメディアスペースを、授業でのグループ学習や言語活動に関する教材提示等に活用する。  → 日常生活で気軽に言葉に触れる場や機会を設けることで、国語という言葉や伝統文化を尊重し、広く啓蒙する姿勢を養う。</p>

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好奇心旺盛で、過去や現在の社会的事象に興味をもっている生徒が多い。</li> <li>・高い意識をもち、自ら進んで学習に取り組むことができる生徒がいる一方で、基礎的・基本的事項が定着していない生徒もいる。</li> <li>・問いに対し、自分のもっている知識をもとに、主体的に考えることができる生徒が多いが、何が問われているかが理解できない、また、根拠となる資料の読み取りを苦手とする生徒もいる。</li> <li>・自分の考えをもっているが、それを文章にまとめたり、述べたりすることを苦手とする生徒が多い。</li> <li>・協働学習に意欲的に取り組む生徒が多い。</li> </ul>
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の知的好奇心を刺激する授業を構築すること。</li> <li>・生徒に、基礎的・基本的事項を身につけさせること。</li> <li>・生徒に、文章や資料を読み解く力をつけること。</li> <li>・生徒に、自分の考えを文にまとめる力をつけること。</li> <li>・生徒に、自分の考えを発表する力をつけること。</li> <li>・協働学習の場を増やすこと。</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的事項の定着をするため確認テストの実施 →授業ごとのミニテスト</li> <li>・魅力的な学習課題の設定 →生徒が興味をもって学習できる課題を工夫する。     時事的ニュースと組み合わせ、他人事にならない課題を考える。</li> <li>・資料集および視聴覚教材、過去の入試問題などの活用 →さまざまな資料を読み解く力を養う。</li> <li>・思考ツールの導入 →思考の「見える化」をはかり、考えをまとめやすくする。</li> <li>・協働学習の実施(4人1組) →課題を解決するためにはどうしたらよいか、意見を出し合い、考えをまとめられるようにする。</li> <li>・振り返りの時間の設定 →最低5分、時間をとり、自分の考えがまとめられるようにする。</li> </ul>

<p>生徒の状況</p>	<p>社会科への興味・関心が比較的高く、発言する生徒も多い。しかし、難易度が高い課題に関しては諸資料を読み解くことなく、すぐに解答を求め、作業に時間のかかる生徒もいる。 また、小テストや定期考査において、知識を問う問題に関しては正答率が高いが、「なぜ」「どうして」という発問に答えることができる生徒は少なく、資料の読み取りや理由や原因・結果を答える記述の問題を苦手としている生徒も少なくない。</p>
<p>指導についての課題</p>	<p>「資料を読み取ること」「自分の考えを深めること」という項目に課題がある。そこで、授業の中では、まずは自分の考えをもつ時間を確保することにした。また、「自信がない」「間違えるのは恥ずかしい」という思いをなくし、学習課題に対して、自分からワクワクと取り組めるような工夫をした。グループ活動を行い、自分の考えと他者との新しい考えに触れる中で、「社会科は覚える教科である」という認識から少しずつ離れられてきた。</p>
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>校内研修 研究テーマ 「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」 ～教科センター方式を活かした主体的な学びの実現～</p> <p>①魅力的な学習課題を設定する。 → 生徒が「知りたい」「調べたい」と思う学習課題を設定する。</p> <p>②思考ツールを使い、新しいアイデアを出しやすくする。 → 思考が目に見える形になり、新たな気づきが生まれる。</p> <p>③振り返りの時間を設けることで、工夫調整を図ったり、自らの学びの深まりを確認したりすることで、<u>学びのサイクル</u>を創る。</p> <p style="text-align: center;">「 発意 → 構想 → 構築 → 表現 → 省察 」</p> <p>→ 授業の最後に本時の課題に対する自分の考えを書き、自己の思考の深まりを確認する。</p> <p>④協働の考えをふまえた授業を行う。(4人1グループ) → 生徒の新しい考えに触れたい、認められたい気持ちを大事にする。(対話を生かした授業) 司会、発表、机の形など話し合いの仕方をそれぞれの教科で工夫する。</p> <p>⑤視聴覚資料(ホワイトボード)を活用する。 → ホワイトボードを活用し、話し合い活動を円滑に行う。 書画カメラなどを使い、教科書や資料集などの読み方を確認する。</p> <p><b>※8年社会科の授業に関する生徒の意見(生徒と教員が参加した授業研究から)</b> (生徒の意見、感想) 資料から読みとって、自分で考えたり、他の人の意見を聞いたりすることは新しい発見があり、とても楽しい。 しかし、毎回の授業で生徒だけで考える授業だとこれで合っているか不安になることもあるので、資料読み取りの授業と先生が教えてくれる授業の両方があると良いと思った。 (上記のことから授業改善) 単元ごとに1～2回程度の課題学習を行い、その他の授業では基礎基本が定着するような授業にしていく。</p>

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好奇心旺盛で、過去や現在の社会的事象に興味をもっている生徒が多い。</li> <li>・受験を意識し、自ら進んで学習に取り組むことができる生徒が増えたが、基礎的・基本的事項が定着していない生徒もいる。</li> <li>・問いに対し、自分のもっている知識をもとに、主体的に考えることができる生徒が多いが、何が問われているかが理解できない、また、根拠となる資料の読み取りを苦手とする生徒もいる。</li> <li>・自分の考えをもっているが、それを文章にまとめたり、述べたりすることを苦手とする生徒が多い。</li> <li>・協働学習に意欲的に取り組む生徒が多い。</li> </ul>
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の知的好奇心を刺激する授業を構築すること。</li> <li>・生徒に、基礎的・基本的事項を身につけさせること。</li> <li>・生徒に、さまざまな資料を読み解く力をつけること。</li> <li>・生徒に、自分の考えを文にまとめる力をつけること。</li> <li>・生徒に、わかりやすく発表する力をつけること。</li> <li>・協働で課題の解決を図ること。</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的事項の定着させるための確認テストの実施 →既習の事項について予告した上で行う。</li> <li>・魅力的な学習課題の設定 →生徒が興味をもって学習できる課題を工夫する。 時事的ニュースと組み合わせ、他人事にならない課題を考える。</li> <li>・資料集および視聴覚教材、過去の入試問題などの活用 →さまざまな資料を読み解く力を養う。</li> <li>・思考ツールの導入 →思考の「見える化」をはかり、考えをまとめやすくする。</li> <li>・協働学習の実施(4人1組) →課題を解決するためにはどうしたらよいか、意見を出し合い、最も良い結論を考える。 話し合いの内容や結論を発表する。その際、発表者が毎回同じにならないように気をつける。</li> <li>・振り返りの時間の設定 →最低5分、時間をとり、自分の考えがまとめられるようにする。</li> </ul>

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に問題解決をしようとする生徒がいる。</li> <li>・授業で理解しても、定着するまでに至っていない生徒がいる。</li> <li>・ノートをとることが難しい生徒がいる。その生徒の中では、内容は理解しているが、書くことが著しく苦手な生徒や、内容を理解すること、板書を写すことも難しい生徒もいる。</li> <li>・基礎・基本となる既習事項の定着が不十分な生徒もいる。</li> <li>・課題の提出率は9割程度である。</li> <li>・ドリルパークを使っての家庭学習を率先して行っている。 しかし、繰り返し行っているかについての確認はとれていない。</li> <li>・本時のふりかえりを授業の終わりに、ふり返しシート“Step!”を節の最後の授業で記述しているが、その文面には本時の授業や節ごとに内容をどう理解しどのように活用していくかといった記述(深い学び)が見られるようになった。</li> </ul>
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の学力差への対応(少人数習熟度別授業の展開)</li> <li>・基礎・基本となる既習事項の定着</li> <li>・考える時間の確保</li> <li>・グループ学習や生徒の説明により授業を展開すること</li> <li>・読み解く力や説明する力の育成</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けた具体的な方策</p>	<p>◇「板橋区授業スタンダード」の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容・めあてを明確にし、生徒がノートに書き、課題意識をもたせているか確認する。</li> <li>・毎時の授業で、自力解決の時間、集団で相談・考える時間を設ける。</li> <li>・ねらいを達成できたか確認できるような授業展開を行う。</li> <li>・授業のまとめにおいて、めあてに即した本時の振り返りを文章化する。</li> </ul> <p>◇校内研修 研究テーマ 「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」 ～教科センター方式を活かした主体的な学びの実現～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解く中で、互いに質問や意見交換を行うことで、自ら解決する姿勢を育てると共に、説明することでより深く内容を理解できるような場面を設定する。</li> <li>・教科リーダーを中心とした教科メディアセンターを充実させ、生徒が数学に興味関心をもち、主体的に数学に取り組む場を設定する。</li> </ul> <p>◇学びのエリアにおける小中一貫教育の推進の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文からの確に情報を理解する力を育成するために、問題文にラインを引くなどの作業を行う。</li> <li>・情報を整理し、数学的に考えるために式・表・図を活用した思考の整理を行う。</li> <li>・小学校からの引き継ぎ、授業の様子などで連携を図る。</li> </ul> <p>◇その他(習熟度授業、GIGAスクール等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業により、ひとりひとりの状況に応じた丁寧な指導を心掛ける。 また、答えに辿り着けなくとも、途中の過程を評価するような言葉掛けを行う。</li> <li>・ドリルパークを取り組ませることで、家庭でも主体的に学習に取り組み、授業の理解の確認・自力解決し、定期考査に向けた準備をさせる。</li> <li>・単元テストを実施した際、個別のデータを分析できるようなカルテを作成し、生徒の個々の学習に使える参考資料を用意する。</li> <li>・定期考査後に解き直しを行い、自分の出来なかった所を確認し、理解を深めることを習慣化できるようにする。</li> </ul>

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に問題解決をしようとする生徒がいる。</li> <li>・積極的に学習内容を理解しようとする生徒がいる。</li> <li>・授業で理解しても、定着するまでに至っていない生徒がいる。</li> <li>・基礎・基本となる既習事項の定着が不十分な生徒もいる。</li> <li>・既習事項が身につけていないために、授業で理解できない生徒がいる。</li> <li>・ノートをとることが難しい生徒がいる。その生徒の中では、内容は理解しているが、書くことが著しく苦手な生徒もいるし、内容を理解することも板書を写すことも難しい生徒もいる。</li> <li>・課題の提出率は8割程度である。</li> <li>・授業で理解し、家庭学習で定着する勉強の仕方が定着している生徒がいる。</li> <li>・わからないことを質問できる生徒がいる。</li> </ul>
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の学力差への対応(少人数習熟度別授業の展開)</li> <li>・基礎・基本となる既習事項の定着と定着したことの確認</li> <li>・自力解決の時間の確保</li> <li>・グループ学習や生徒の説明により授業を展開すること</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けた具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業により、ひとりひとりの状況に応じた丁寧な指導を心掛ける。 生徒の躓いている箇所の言葉掛けを行い、生徒が自力で最後まで考えようとする姿勢を育成する。</li> <li>・授業の導入において、既習事項を確認する。</li> <li>・定着するために、ワークを活用することのよさを感じさせ、生徒の勉強のサイクルである、予習、授業、復習の学習スタイルをつくらせる。</li> <li>・定期考査後に解き直しを行い、自分の出来なかった所を確認し、理解を深めることを習慣化できるようにする。</li> </ul> <p>◇「板橋区授業スタンダード」の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容・ねらいを明確にし、生徒がノートに書けていることを確認する。</li> <li>・ノートを忘れてしまった生徒には、紙を用意し、配り、次回は忘れないように声をかける。</li> <li>・授業のまとめにおいて本時の振り返りをするとともに、ねらいを達成できたか確認できるような授業展開を行う。</li> </ul> <p>◇校内研修 研究テーマ 「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」 ～学力向上に向けた「読み解く力」の育成～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と教え合い、説明することでより深く内容を理解できるような場面を設定する。</li> </ul> <p>◇学びのエリアにおける小中一貫教育の推進の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文からの確に情報を理解する力を育成するために、問題文にラインを引くなどの作業を行う。</li> <li>・情報を整理し、数学的に考えるために式・表・図(グラフ)を活用した思考の整理を行う。</li> </ul>

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学に苦手意識を持っている生徒も多いが、授業に落ち着いて取り組み、粘り強く練習する様子がみられる。</li> <li>・数学に対する学習意欲の高い生徒もおり、自主的に数学に関する課題に取り組んでいる生徒もいる。</li> <li>・繰り返し練習する中で、「わかった」「できた」という達成感から学習に対する意欲と自己肯定感を高めている生徒が増えている。</li> <li>・基礎・基本となる既習事項の定着が不十分な生徒もいる。</li> <li>・コロナ禍の影響もあり、対話的な学びについては不足しているが、課題に対して自分の考えを持つことや友だちと学び合う姿が増えている。</li> </ul>
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の学力差への対応。(習熟度別少人数授業の展開)</li> <li>・基礎基本となる既習事項の定着。</li> <li>・間違えた問題やわからなかった問題に対する取り組み方。</li> <li>・読み解く力や説明する力の育成。</li> <li>・タブレットの活用やデジタル教科書の活用。</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別少人数授業を通して、到達目標を見据えた授業展開を行う。一人、ひとりの状況に応じた指導や、途中過程も評価するような言葉掛けを行う。</li> <li>・既習内容の小テストや計算コンクールの継続により、基礎学力の定着を図り、練習すればできるという達成感やわかる喜びや楽しさを味わわせ自己肯定感を高められるようにする。また、提出物への取組を促し、家庭学習の習慣化と既習内容の確認・定着を図る。単元テストや定期考査時にワークを提出させることで、テストに向けた準備をさせるとともに、テストにより自分の理解度を確認できるようにする。タブレットを用いたミライシードの活用(ドリルパーク等)も促している。</li> <li>・小テスト、単元テスト、定期考査は必ず解き直しを行い、自分の出来なかった所を確認し、理解を深めることが習慣化できるようにする。</li> <li>・問題を解決する場面では、既習事項を活用する力、見通しをもって考える力・自力解決する力、記述力や発表力などの表現力を高め、挑戦する意欲を高められるようにする。課題設定や発問の工夫を行う。</li> </ul> <p>◇「板橋区授業スタンダード」の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入において、本時の学習内容・目標を明確にし、授業のまとめにおいて本時の振り返りをするとともに、目標を達成できたか確認できるような授業展開を行い、主体的に授業に取り組めるようにする。</li> </ul> <p>◇校内研修 研究テーマ</p> <p>「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」      ～ 教科センター方式を活かした主体的な学びの実現 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解決していく中で、互いに質問や意見交換を行うことで、自ら解決する姿勢を育てると共に、説明することでより深く理解できるような場面を設定する。</li> </ul> <p>◇学びのエリアにおける小中一貫教育の推進の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文からの的確に情報を理解する力を育成するために、問題文にラインを引くなどの作業を行う。</li> <li>・情報を整理し数学的に考えるために、式・表・図を活用した思考の整理を行う。</li> </ul>

生徒の状況	<p>《第7学年》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・積極的に学習に取り組む生徒が多く、グループ学習を行うと活発な意見交換が交わされる。しかし、発表のスキルが不十分な生徒も多い。</li><li>・小学校での既習事項が定着していない生徒もいるが、理科や日常の現象に興味をもっている生徒は多い。</li><li>・理科における計算は苦手意識を持っているため、途中で諦めてしまう生徒もいる。しかし、周りが助けようと協力的で学習を放棄する生徒は少ない。</li><li>・実験に対する意欲が非常に高く、自ら実験計画を立てる活動にも前向きである。</li></ul>
指導についての課題	<p>《第7学年》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・グループ学習における共有の場をより一層増やす。</li><li>・実験内容の理解を高める。</li><li>・既習事項の定着。</li></ul>
授業改善に向けての具体的な方策	<p>《第7学年》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・定期的に課題や小テストを実施することで、知識の定着を図るとともに、一人ひとりの生徒がどこで躓いているのかを把握する。また、躓きを解消できるよう放課後など質問を受け付ける。</li><li>・日常生活と理科の結びつきを意識させるために、身近な事例や科学に関わるニュース情報などを紹介する。</li><li>・生徒一人一人が「わからない」といえる環境をつくるため、クラス全員で学ぶという姿勢をもたせる。</li><li>・実験の計画や予想、結果考察のまとめ、発表など様々な活動を通して、思考力や表現力の向上を目指す。</li></ul>

生徒の状況	<p>《第8学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に学習に取り組む生徒が多く、授業中の発言や質問も多い。</li> <li>・理科の学習を日常生活と結びつけ、新たな疑問をもてる生徒が多い。</li> <li>・グループ学習を行うと活発な意見交換が行われ、ホワイトボードを活用した発表もスムーズに行うことができる。</li> <li>・理科における計算や表・グラフの読み取りに苦手意識があるが、互いに助け合う姿が見られる。</li> <li>・実験・観察では感情が高ぶってしまう生徒もいて、目的を見失うことがある。</li> </ul>
指導についての課題	<p>《第8学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より深いデータ分析や考察を行うことができるようにする。</li> <li>・グループ学習における共有の場をより一層増やす必要がある。</li> <li>・既習事項の定着。</li> </ul>
授業改善に向けての具体的な方策	<p>《第8学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実権・観察に落ち着いて臨ませ、結果をまとめ、読み取り、インターネット検索を活用してより深い内容の情報を収集しながら分析や考察をまとめることができるようにする。</li> <li>・クロームブックタブレットを活用して、意見交換や考えの共有、全体での発表を行う授業を展開し、対話的な学びの場を多く設定する。</li> <li>・日常生活と関連する内容を多く取り上げ、新たな気づきや疑問を自分で探究できるようにする。また、それらは全体で共有する。</li> <li>・生徒一人一人が「わからない」といえる環境をつくるため、クラス全員で学ぶという姿勢をもたせる。</li> <li>・実験・観察において、目的、実験手順、予想、結果、考察という思考のプロセスを意識させながら取り組むことで、論理的思考力の向上を目指す。</li> <li>・定期的に課題や確認テストを実施し、知識の定着を図るとともに、一人一人の定着度を把握し、支援につなげる。</li> </ul>

<p>生徒の状況</p>	<p>《第9学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の考察において、科学的根拠をもとに自らの考えを述べるができる生徒が増えた。</li> <li>・クロームブックタブレットを活用して、自分なりに工夫しながらまとめることができている。</li> <li>・授業に積極的に参加し、クラスでは互いに教え合う姿が見られる。</li> <li>・既習事項の定着が不十分な生徒がいる。</li> <li>・読み解く力における「推論」や、自分の言葉で説明する「表現」に苦手意識を持つ生徒がいる。</li> <li>・全国学力調査の平均は高かった。知識・技能の正答率は55.5%、思考・表現・判断の正答率は59.7%で、知識・技能が思考・判断・表現に比べやや低めであった。</li> </ul>
<p>指導についての課題</p>	<p>《第9学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み解く力、説明する力の育成</li> <li>・グループ学習や対話的な学びの場を増やす</li> <li>・既習事項の定着</li> </ul>
<p>授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>《第9学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や実際の実験結果を読み取るだけでなく、班員やクラスでの話し合いの内容やインターネットから収集した情報を比較、検討、分析し、考察をまとめられるようにする。</li> <li>・クロームブックタブレットを活用し、自分の考えを説明したり、周りの意見と比較したりする授業を展開し、対話的な学びの場やグループ学習の場を増やす。</li> <li>・読み解く力における「推論」や自分の言葉で説明する「表現力」を高めるために、実験・観察において必ず自分の予想を理由とともにまとめる時間を確保する。</li> <li>・自分の考えや意見を周りとは共有し、クラスで発表する場をできるだけ多く確保する。</li> <li>・実験・観察において、目的、実験手順、予想、結果、考察という思考のプロセスを意識させながら取り組むことで、論理的思考力の向上を目指す。</li> </ul>

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちは落ち着いており、しっかり授業に取り組める生徒がとて多い。</li> <li>・どの活動も積極的に楽しく取り組める生徒が多い。</li> <li>・英単語や英文を読めないあるいは苦手とする生徒が1割ほどいる。</li> <li>・夏休みの課題である音読録音は3分の2くらいの生徒しか提出できていない。</li> <li>・英語多読多聴の夏休みの取り組みである30冊の課題も生徒によって取り組みの差がある。</li> </ul>
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に取り組んでいない、あるいは取り組めない生徒に関して、個別に対応する必要がある。</li> <li>・英語多読多聴のアプリに関して、ただ生徒にやるように任せるのでは 取り組みの頻度が下がる。</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語多読多聴に関しては、自分がおすすめの本を紹介するなどアウトプットにつながる取り組みを行う。</li> <li>・授業最後にその日の授業の振り返りとしてゲーグルフォームでミニテストを行う。</li> <li>・語順ドリルを音読、文法テストなどいろいろなやり方で組み合わせて、基本英文法の定着を図る。</li> </ul>

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数形式の授業を行う中で生徒が積極的に参加している。</li> <li>・苦手意識が強い生徒も、自分ができることをやろうと努力している。</li> <li>・ALTの授業の際は一斉形式に授業を行い、生徒が英語に触れる機会を多くしている。</li> <li>・概ね規律を守り集中して取り組む姿勢はある。</li> <li>・会話活動やアクティビティーをやる中で、英語を使うことによって抵抗感を軽減すると同時に習った文法がどういう場面で使われるか考えさせる。</li> <li>・ペア活動では、発音を教え合ったり、英文の書き方を教え合ったり学び合う場面がある。</li> <li>・活動後、自己評価を行い、振り返りをする中でさらに自分の英語の力を向上したい生徒がいる。</li> </ul>
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より少人数1クラスあたりの人数が増えて、きめ細かく指導ができていない。</li> <li>・ALTを活用したり、生徒がメディアスペースを活用できたりするように、英語科の教員のみならず、教科リーダーの生徒ともに工夫した活用をしていきたい。</li> <li>・英語の基礎知識が定着していない生徒へのサポートが少ない。</li> <li>・主体的に学習に取り組む態度の評価材料を充実させる必要がある。</li> <li>・音読テストやスピーキングテストがあまり実施されていない。</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けた具体的な方策</p>	<p>◇校内研修 研究テーマ 「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」 ～教科センター方式を活かした主体的な学びの実現～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を活用し、自分たちの実力で問題解決させる。また、なぜその答えになるのかクラスメイトに伝え、より深い学びへ変えていく。</li> <li>・ペア活動等での英会話や、英問英答、アクティビティーを行うことで英単語や英文法を知識として定着させ、自己表現の向上を目指す。</li> <li>・スピーキング力、音読の力を向上させるため、タブレットPCの録音機能を活用して話す力の向上をめざす。</li> <li>・教科リーダーの協力のもと、メディアスペースを充実させ、英語学習に興味をもたせる。</li> <li>・教科書の題材、さらにSDGs等、社会的な問題にも目を向けて簡単な英文で自分の考えを発表したり共有できたりする場面をつくる。</li> </ul> <p>◇「板橋区授業スタンダード」の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいや流れを明確に提示し、各自がねらいを達成できたか振り返りシート等で確認し授業展開に活かす。</li> </ul> <p>◇学びのエリアにおける小中一貫教育の推進の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前授業等で小学校の英語の授業を行うことで、小学校の英語教育での課題を情報共有する。</li> </ul>

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業実施(2クラス3展開・1クラス2分割)、ALTの授業では必要に応じて学級で実施</li> <li>・授業への集中度も高く、学習状況も良い。音声練習やアクティビティー等、積極的にのぞんでいる。チャイム前着席を継続している。</li> <li>・語彙やリスニング力の強化(ホキョブラ)・文法の定着・長文読解に向けて、表現練習を繰り返し行い、定着をはかっている。基本文コンテスト(8年の復習)や基本文スピーキングテスト(暗唱)に向けて、英文を使おうとする姿勢が見られる。書くことが苦手な生徒の中にも、話す活動に意欲的に取り組んでいるものも多く見られる。</li> <li>・3学年の基本項目の理解度は概ね良好である。一方、1学年の学習内容が一部未定着な生徒、長文読解力を高める必要がある生徒もいる。</li> <li>・英文の表現練習(スピーキング・ライティング)などの課題では、発展的な内容に意欲的に取り組んでいるものもいる。家庭学習を深めている生徒も多く見られる。各自の到達目標に向けて、粘り強く学習する力を高めたい。</li> </ul>
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業のクラス編成の工夫(ペア活動やアクティビティー等言語活動の実施・個に応じた指導の充実)</li> <li>・基礎基本の力や課題提出が不十分な生徒への対応</li> <li>・ALTとのよりインタラクティブな授業の設定</li> <li>・スピーキング力の向上 (英検・ESAT-Jも視野に)</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>☆校内研修 研究テーマ 「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」 ～教科センター方式を活かした主体的な学びの実現～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①コミュニケーションを通して、学び合う力を高めるようにする。</li> <li>②英語を使うことへの興味関心を高め、様々な表現を使って、主体的に英語を使う場面を取り入れる。</li> <li>③身近な題材に加え、SDGsはじめ社会的な問題にも目を向け、互いの意見交換を通して、自分自身の考えを深め、表現できるようにする。[スピーチ・やりとり・ライティング]</li> <li>④教科リーダーを中心にメディアセンターが日常的に使われる場を増やす。</li> </ol> <p>☆「板橋区授業スタンダード」の継続</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①本時の課題を明確にし、各自が達成できたかを自ら考える時間をもつ。</li> <li>②協同学習を取り入れ、音読や語彙、英語表現の力(話す)を高める。</li> <li>③デジタル教科書やクロムブック、ふりかえりの活用をする。</li> </ol> <p>☆学びのエリアにおける小中一貫教育の推進の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①小中互いの学習内容や学習状況を共有し、学習がスムーズに移行できる工夫をはかる。</li> <li>②アクティビティー活動等の情報交換・出前授業</li> </ol>

生徒の状況	<p>【7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・どのクラスも積極的に取り組み、男女関わらず教え合える。</li><li>・個人的技能の差が大きい。</li><li>・自分達で考えて行動する力は弱い。</li></ul> <p>【8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・運動が好きで、積極的な生徒が多い。</li><li>・お互いに教え合うことに対して消極的。</li><li>・集合整列など集団行動に時間がかかる。</li></ul> <p>【9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・男女に教え合いができ、意欲的に取り組める生徒が多い。</li><li>・個人的技能の差が大きく、できない種目は諦めてしまう傾向がある。</li><li>・体力テストの持久力の数値が低い。</li></ul>
指導についての課題	<p>【7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各クラス共通の教え合い活動を積極的に取り入れ、活動の幅を広げる。</li><li>・補強運動を充実させ全体の体力向上を図る。</li><li>・個人的技能を定着させ、全体的な技能の習熟、向上を図る。</li></ul> <p>【8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業中の運動量を増やし、説明を短縮できるようメリハリのある展開を目指す。</li><li>・自己の課題を見つけ工夫して練習に取り組み、技能の習熟を図る。</li><li>・個々の教え合いを全体で共有し、全体の技能向上を図る。</li></ul> <p>【9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・集団行動での、素早い動きを意識させ取り組ませる。</li><li>・競技の特性に合わせて、補強運動として持久力を高める運動を取り入れる。</li><li>・競技の特性を理解させ、どの種目でも安定して取り組ませる。</li></ul>

授業革新推進に向けた具体的な方策

【7学年】

- ・教え合い活動を定着させ、1つの指示で動けるようにする。
- ・反復練習で動きの方法を身に付けさせる。
- ・見本となる動きを見せ今よりも技能を向上させようという意識を高める。

【8学年】

- ・集団行動の具体的な目標(タイム、態度等)を決め取り組ませる。
- ・教え合いを取り上げ、全体で学び合う場を仕組む。

【9学年】

- ・ペアや複数でポイントや課題解決のためにできることを考えさせる。
- ・集団行動の具体的な目標(態度、正確さ)を決め取り組ませる。
- ・場の設定の工夫と段階的な指導を行い、個人の体力・技能を高める。

<p>生徒の状況</p>	<p>【全学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として意欲的に取り組んでいるが、楽譜の内容を理解し演奏することに対して苦手意識をもっている生徒がいる。</li> <li>・音楽を構成する諸要素を聴き取る力をもっている生徒が多い。</li> </ul> <p>【7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に取り組む生徒が多い中、教科書を出したりすることも難しい生徒がいる。6年生の時には、離席していたり、授業と関係のないことをしてしまったりする生徒も、中学生になり、そのような態度は取っていないことを考慮して、頑張りを認めてあげながら、基礎基本を定着させていきたい。</li> </ul> <p>【8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に取り組めない生徒もいるが、この1学期の学習の積み重ねで、だいぶ前向きに変わってきた。</li> </ul> <p>【9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲は大変高く、自分の考えをもったり表現を工夫しようとしていたりしている。</li> </ul>
<p>指導についての課題</p>	<p>【全学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴き取った音楽の特徴や感じたことを自分の言葉で表現できるようにする。</li> <li>・音楽用語の知識を習得して、正確な楽譜の読み方ができるようにする。</li> <li>・楽譜を理解し自分なりの表現活動ができるようにする。</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>【全学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士で意見交換を行い、他者の意見も参考に音楽の特徴や感じたことを自分の言葉でまとめる力を身に付けていく。</li> <li>・学習過程の中でグループワークを取り入れ、他の生徒と関わり合い協働で活動しながら表現力を高めていく。</li> <li>・練習の様子をクロムブックで録画し、個人、ペア、グループ等で演奏を振り返り課題を確認し練習計画を立てていく。</li> <li>・音の3要素(音色、強弱、音高)や音楽の3要素(旋律、リズム、ハーモニー)を意識しながら「読み解く力」を高める学習活動を進めていく。</li> </ul> <p>◇「板橋区授業スタンダード」の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容・ねらいを明確にし、生徒がワークシートなど書けていることを確認する。</li> <li>・授業のまとめにおいて本時の振り返りをするとともに、ねらいを達成できたか確認できるような授業展開を行う。</li> </ul> <p>◇校内研修 研究テーマ</p> <p>「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」 ～教科センター方式を活かした主体的な学びの実現～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士で、互いに意見交換を行いながら、表現を豊かにしようとする姿勢を育てると共に、他の生徒に説明することでより深く曲想を理解できるような場面を設定する。</li> </ul> <p>◇学びのエリアにおける小中一貫教育の推進の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜からの確に音楽の要素を理解する力を育成するために、歌詞や音楽の用語にラインを引くなどの作業を行う。</li> <li>・自分の演奏を客観視するために、Chromebook を多用し、表現力を高める。</li> </ul>

<p>生徒の状況</p>	<p>【第7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は作業に意欲的に取り組んでいるが、関心が低い生徒も一部いる。</li> <li>・タブレットPCの操作が全体的に活用方法は定着しているが、個人差がある。</li> </ul> <p>【第8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、集中力が続かない生徒も一部いる。</li> <li>・構想や作業への苦手意識のある生徒が一部見られる。</li> </ul> <p>【第9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は全体的に意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・座学中心の授業が多い中でも意欲的に取り組む生徒が増えてきている。</li> <li>・タブレットPCの扱いに個人差がある。</li> </ul>
<p>指導についての課題</p>	<p>【第7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業説明後、一部の生徒は説明した通りの操作ができていない。</li> <li>・生徒一人ひとりの作業の進捗状況に差がでてくる。</li> </ul> <p>【第8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業説明後、一部の生徒は説明した通りの作業方法が理解できていない。</li> <li>・生徒一人ひとりの作業の進捗状況に差がでる。</li> </ul> <p>【第9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業説明後、一部の生徒は説明した通りの作業方法(今何をやる時間か)できていない。</li> <li>・距離を保つ必要があるため、ペアやグループワークの時間が確保しづらい。</li> </ul>
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>【第7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導をこまめに行い、生徒が作業を適切にできるように指導を行う。</li> <li>・ICT 機器を活用し理解しやすい授業の導入や教材作成の工夫を行う。</li> <li>・グループ、ペア間での教え合いの時間を確保するとともにタブレットPCを活用し意見の共有を行う。</li> </ul> <p>【第8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が強い興味を持てるような導入の工夫をする。より身近な教材を多く取り入れることにより関心を持たせる。</li> <li>・机間指導を常に心がけ、生徒が機器や工具を適切に使用できるように指導を行う。</li> <li>・作業前後の機器や工具の整理整頓を生徒に徹底させることにより、安全を確保し円滑な授業ができるようにする。</li> <li>・ICT 機器を効果的に活用し、生徒が理解しやすい授業を行う。</li> <li>・感染症対策をしっかり行い、グループ、ペア間での教え合いの時間を確保する。</li> </ul> <p>【第9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業中は机間指導を徹底し、生徒が機器を適切に使用できるような指導を行う。</li> <li>・機器や工具の整理整頓を生徒に徹底させることにより、安全を確保し円滑な授業ができるようにする。</li> <li>・ICT 機器を効果的に活用し、生徒が理解しやすい授業を行う。</li> </ul>

生徒の状況	<p>【7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が話をしっかりと聞いて、真剣に授業に取り組もうという姿勢が見られる。</li> <li>・一部の生徒が、宿題に取り組まず提出物を出さない。</li> </ul> <p>【8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの生徒が真面目に授業に取り組んでいるが、一部私語をしている生徒がいる。</li> <li>・一部の生徒が、宿題に取り組まず提出物を出さない。</li> </ul> <p>【9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生となり、全体的に意欲的に授業に取り組んでいる。</li> <li>・提出物に不備がある生徒が一部いる。</li> </ul>
指導についての課題	<p>【7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律を含めた、基礎・基本を全員に徹底できるようにする。</li> <li>・コロナ禍での安全を大切にして、理解したことを失敗しても作業をさせていく。</li> </ul> <p>【8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業では先のことを考えながら技術向上をはかるよう、働きかける。</li> <li>・個々の進捗状況に応じて考えながら学んでいける指導を行う。</li> </ul> <p>【9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少ない授業時数の中で毎時間の作業の時間を多く確保する。</li> <li>・自分の作品に愛着が持てるよう、製作を行う。</li> </ul>
授業革新推進に向けての具体的な方策	<p>【7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を工夫して完成させ、自分の作った作品に愛着を持たせる。</li> <li>・調理実習を行う折には、マスクや手洗いを徹底し協働作業を行う。</li> </ul> <p>【8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業内容が明確に伝わるようにするとともに、安全に作業させ、集中して作品を作らせる。</li> <li>・調理実習を行う折には、マスクや手洗いを徹底し協働作業を行う。</li> </ul> <p>【9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作品に思いを込めて製作が行えるよう、教員からもアドバイスをを行う。</li> <li>・今までの学習を振り返りながら、作業に反映できるようにする。</li> <li>・3年間の総まとめとして自立と共生の力をさらに習得し、これからの家庭生活で実践できるようにする。</li> </ul>